

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド

東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 109 円を回復して堅調な推移か

[5月3日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月26日～4月30日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.14	109.22(29)	107.64(26)	108.78	+0.90
ユーロ・ドル	1.2096	1.2150(29)	1.2056(28)	1.2116	+0.0019
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	28,812.63	-375.54		日本10年債利回り	0.097 +0.026
ダウ平均株価	34,060.36	+16.87		米10年債利回り	1.634 +0.077

<来週の主要経済統計等>

- 3日 独3月小売売上高
独4月製造業PMI 確報値
ユーロ圏4月製造業PMI 確報値
米4月製造業PMI 確報値
米3月建設支出
米4月ISM製造業景況指数
- 4日 豪3月貿易収支
中国4月財新製造業購買担当景気指数
豪中銀(RBA)政策金利
英4月製造業PMI 確報値
カナダ3月貿易収支
米3月貿易収支
米3月製造業受注
- 5日 NZ第1四半期雇用統計
豪3月住宅建設許可件数
スイス4月消費者物価指数
独4月非製造業PMI 確報値
ユーロ圏4月非製造業PMI 確報値
ユーロ圏3月生産者物価指数
米4月ADP雇用統計
米4月サービス業PMI 確報値
米4月ISM非製造業景況指数
- 6日 独3月製造業受注指数
ユーロ圏3月小売売上高指数
英中銀(BOE)政策金利
米第1四半期非農業部門労働生産性指数
米新規失業保険申請件数
- 7日 中国4月貿易収支
スイス4月雇用統計
独3月鉱工業生産指数、独3月貿易収支、独3月経常収支
英4月建設業PMI
カナダ4月雇用統計
米4月雇用統計
カナダ4月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】米10年債利回りは1.55%前後まで低下した後はおもひいと

なっている。ドル円は19日に長い陰線でボリンジャーバンド-2σに接近して、その後も上値重く推移している。この軟調な流れが継続して、ドル円はさらに下値を探る展開が見込まれるとした。

【FOMCでは金融政策に変更なし】

4月27～28日に米連邦公開市場委員会（FOMC）では、市場予想の通り、ゼロ金利政策や量的緩和策は維持された。フェデラルファンドレート（FFレート）の誘導目標は0～0.25%に据え置かれた。また、米国債を月額800億ドル、MBS（住宅ローン担保証券）を月額400億ドルペースで買い入れる方針も全会一致で維持された。

FOMC声明では「経済活動と雇用は力強さを増した」と景気認識は引き上げた。一方で、「インフレは上昇したものの一過性の要因を主に反映した」としており、あくまでも物価上昇は一時的なものであることを強調した。

パウエル議長は記者会見で「インフレの一時的上昇は利上げを正当化しない。まだ資産購入ペース縮小について協議する時期ではない」と、これまでと同様に慎重姿勢を示して、一部でささやかれる量的緩和の縮小（テーパリング）観測にクギを刺した。まだ多くの人が離職しており、サービス業の労働者は仕事を見つけるのに苦労する可能性にも言及した。

FOMCの結果もパウエル議長の記者会見の内容もおおむね予想通りとなった。米連邦準備制度理事会（FRB）のハト派姿勢が再確認された格好となった。

ドル円は米長期金利の低下などを背景にドル売り円買いの動きとなって、4月23日に107円台半ばまで下落した。米10年債利回りは1.53%前後まで低下した後、4月30日には1.65%前後まで上昇しており、ドル円も109円台前半まで戻りを見せている。

ドル円は3月31日の高値110.97近辺から4月23日の安値107.48まで3.50円近い下げとなって、修正安の動きが続いてきたことで、下げ一服から戻り歩調に転じている。21日移動平均線の通る109円付近まで戻ってきている。4月29日に109.22付近まで戻したものの、その後は109円近辺でのみみ合いとなっている。

5月第1週は、3日の米4月ISM製造業景況指数、5日に米4月ADP雇用統計、米4月ISM非製造業景況指数、7日に米4月雇用統計など注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。このところの米経済指標は予想から上振れするケースも目立つ。米経済指標の堅調さがすぐに米長期金利の上昇に結び付くわけではないものの、良好な経済指標はドル円の支援材料になりやすとみられる。ドル円は109円台を回復して、その後も堅調な推移が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、108.25～110.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、3日に米4月製造業PMI確報値、米3月建設支出、米4月ISM製造業景況指数、4日に米3月貿易収支、米3月製造業受注、5日に米4月ADP雇用統計、米4月サービス業PMI確報値、米4月ISM非製造業景況指数、6日に米第1四半期非農業部門労働生産性指数、米新規失業保険申請件数、7日に米4月雇用統計などがある。

【ユーロドルは緩やかに上昇を継続か】

ユーロドルは堅調な流れが続いている。米国では緩和的な金融政策が継続される見通しが広がっていることや、欧州でも新型コロナウイルスのワクチン接種の普及が進んで、景気回復につながるとの期待感も広がっている。チャート上ではボリンジャーバンド+1σをサポートに堅調な流れを見せており、引き続き上昇基調が継続するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.2000～1.2250ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、3日に独3月小売売上高、独4月製造業PMI確報値、ユーロ圏4月製造業PMI確報値、4日に豪3月貿易収支、中国4月財新

製造業購買担当景気指数、豪中銀（RBA）政策金利、英4月製造業PMI確報値、カナダ3月貿易収支、5日にNZ第1四半期雇用統計、豪3月住宅建設許可件数、スイス4月消費者物価指数、独4月非製造業PMI確報値、ユーロ圏4月非製造業PMI確報値、ユーロ圏3月生産者物価指数、6日に独3月製造業受注指数、ユーロ圏3月小売売上高指数、英中銀（BOE）政策金利、7日に中国4月貿易収支、スイス4月雇用統計、独3月鉱工業生産指数、独3月貿易収支、独3月経常収支、英4月建設業PMI、カナダ4月雇用統計、カナダ4月IVEY購買部協会指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。